

科目名 (英語表記)	建築学特論 (Special seminar on Architecture)						ポートフォリオ	
学年・学科	1年・建築学専攻		単位・期間	必修2単位・通年週2時間(授業時間60時間) (自己学習時間30時間)			<学生が記入する上での注意事項>	
担当教員 (※は今年度受け持ち学生が いることを示す)	加藤巨邦* 小原聡司 中村裕文 山本 剛 大岡 優* 杉本 弘文 浅野浩平*	連絡先	建築学科棟2階第6研究室 建築学科棟2階第7研究室 建築学科棟2階第2研究室 建築学科棟2階第5研究室 建築学科棟2階第1研究室 建築学科棟2階第4研究室 建築学科棟3階第10研究室	オフィス ア ワ ー	月曜日8限目		【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。 【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。	
【授業目的】	専攻科特別研究において、各自のテーマに則した研究を自らの力で創造的に押し進めていくために必要な各テーマに関連する周辺の専門知識についての修得を目標とする。						【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。	
【履修上の注意】	専攻科特別研究担当教員が専攻科特別研究と密接に関連する周辺分野に関して、演習形式で教授する。レポートは各担当教員に提出する。						【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。	
【事前に行う準備学習や自己学習】	準備学習および自己学習は各指導教員の指示に従うこと。レポートは事後学習として評価する。						ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。	
【達成目標】	1)研究テーマに関連した教員から与えられた周辺基礎知識を理解すること。 2)得られた知識を元に、関連する項目や用語について自力で検索や調査ができること。 3)得られた基礎知識を特別研究に応用することができるかを適切に判断し、問題点があればその解決策を提案することができること。 4)得られた知識・知見をレポートとして適切にまとめること。						<教員が記入する上での注意事項> 教員は、◎が付いているところだけを記	
学 習 到 達 目 標								
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)				ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。	
評価到達目標項目1	研究テーマに関連した教員から与えられた周辺基礎知識から応用知識まで理解すること。	研究テーマに関連した教員から与えられた周辺基礎知識をほぼ十分に理解すること。	研究テーマに関連した教員から与えられた周辺基礎知識を最低限理解すること。				【自己評価】 A ・ B ・ C	
評価到達目標項目2	得られた知識を元に、関連する項目や用語について自力で自由自在に検索や調査ができること。	得られた知識を元に、関連する項目や用語について自力で十分な検索や調査ができること。	得られた知識を元に、関連する項目や用語について自力で最低限必要な検索や調査ができること。				【自己評価】 A ・ B ・ C	
評価到達目標項目3	得られた基礎知識を特別研究に応用することができるかを確実に判断し、問題点があればその正しい解決策を提案することができること。	得られた基礎知識を特別研究に応用することができるかを判断し、問題点があればその解決策を提案することができること。	助言があれば、得られた基礎知識を特別研究に応用することができるかを判断し、問題点についてなんらかの解決策を提案することができること。				【自己評価】 A ・ B ・ C	
評価到達目標項目4	得られた知識・知見をレポートとして、分かりやすくまた過不足なくまとめられること。	得られた知識・知見をレポートとして分かりやすくまとめられること。	助言があれば得られた知識・知見をまとめられること。				【自己評価】 A ・ B ・ C	
到 達 度 評 価 (%)								
評価方法 指標と評価割合	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計	成績の評価方法について ・レポート内容(100%)で評価する。
総合評価割合			100				100	評価基準について ・学年成績60点以上を合格とする。
知識の基本的な理解			50				50	
思考・推論・創造への適応力			50				50	
汎用的技能								
態度・志向性(人間力)								
総合的な学習経験と創造的思考力								
【教科書】	特別研究 I のテーマごとに指導教員が配付あるいは指示する。							
【参考資料】	特別研究 I のテーマごとに指導教員が配付あるいは指示する。							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)	—						【JABEE基準との対応】	
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)	(B)						(c)(d)(e)	

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授 業 要 目	内 容	時 間	
1. 授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明。	1	
2. 各研究室の主な内容(順不同)			【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)
杉本研究室	住まいづくり・まちづくりの手法と提案のプレゼンテーション	29	
中村(裕)研究室	コンピュータを利用した建築設計について		
大岡研究室	木材の材料特性と木造建築物の耐震性能について		
山本研究室	木造住宅の地震応答解析		
加藤研究室	建築物の維持管理手法の修得及び各種構法の力学特性の修得		
小原研究室	VisualBasic, FORTRANによる各種計算処理方法		
浅野研究室	高性能繊維補強セメント複合材料の力学性能評価および電気的特性の評価		
	合計時間	30	【総合達成度】 総合評価の点数()
【備考】			【評価の実施状況】(◎教員は総合評価を出した後に記入する。)